

私は年に1回、沖縄県石垣島の小学校・中学校で、思春期教室や生き方教室の授業にお招き頂いています。先月も4つの小学校にお話に行ってきました。今回初めての小学校が2つあって、その内の1つは私にとって、とてもチャレンジでした。全校生徒18人。1年生から6年生、1学年平均3名づつ。

「どの学年に話すんですか?」「全学年です。」6年生は12歳。1年生は6歳。50も56も一緒ですわ。だけど6歳と12歳は発達段階が全然違う。それを同じ時間に45分ですよ。「集中させるの難しいし、どうしようかなあ…。」

コミュニケーションを取るのに1番いい方法は、共通の友人の話をする事。或いは共通のヒーローの話をしたり。両方が知っている共通の話題は、グッと身近になる秘訣ですよ。だけど孫みみたいな子たちやから、共通の友人あらへん。

そしたら、今の小学生の間で『おしりたんてい』というのが流行ってると。「おしりたんてい? 下ネタやないか。何なん、それ?」NHKでやってると言うんです。「おしりたんてい」という、難問を解決する探偵がいて顔がお尻。どうよ、これ。しかもIQが1104もある。「11(いい)04(おしり)」なに言うてんの! 下ネタやん! 難問事件の現場に立つと腕組みして「うーん、なんか、におうな。」犯人を追い詰める時の必殺技が、これまた下品で、そういうのが子供は大好き。でも、私は見た事がないから話す事ができない。今の情報は全部、子供たちから教えられたんです。

共通のヒーロー、アニメで知ってるものと言ったら1つだけあるんですね。『ドラえもん』。今年2019年はドラえもんの連載が始まって60年。私が生まれる前からあったんですよ。これはいい。ドラえもんの話を最初につかみでやろう。というか、それを材料にして、自分を大切にしようという事を伝えようと思いました。

ドラえもんの作者は藤子・F・不二雄さん。初めは2人でやっていました。手塚治虫(てづか おさむ/1928-1989)が大好きで、最初は手塚不二雄と言ってたけど、手塚治虫の「手」に及びもつかないというので、途中で「足塚」不二雄になるんです。でも足元にも及ばないので、最終的に藤子不二雄にしました。

ドラえもんを描いた方の人の本名は藤本弘(ふじもと ひろし/1933-1996)。彼は視力が悪くて、小学1年から眼鏡をかけてました。小学1年で眼鏡かけてていじめられる子、いたんじゃない? それから運動苦手。勉強苦手。コミュニケーションの取り方悪い。いつも失敗。忘れ物がめっちゃくちゃ多い。ドジでどうしようもない少年。誰かに似てますよね。のび太ですよ。ドラえもんの主人公のび太は、作者の少年時代の姿です。

「藤本弘さんは、自分の恥ずかしい事を、恥ずかしがらずに作品にして人気者になりました。これって、カッコイイって思わない?」みんな「うん、うん」って大きく頷いてる。なぜかという、1年生で既に劣等感を持っている。2年・3年生で既にコンプレックスを持っている。でも「それを恥ずかしがらずに大々的に打ち出して行ったら、何かいい事があるかも」って聞くだけでも、ちょっと希望じゃないですか。

藤本弘少年は小学校・中学校持ち上がりのクラスメートが殆どなのですが、その中の1人にスゴイいじめっ子がいました。体が大きくて、お腹が大きくて、顔が大きくて、声も大きくて、態度がでかい。

ジャイアン。ジャイアンは実在の人物です。本名ではありません。あだ名です。

「本名は?」「ごうだ たけし! (剛田武)」 子供たちはすぐ言いますよ。なんでジャイアンかという、ジャイ子のあん(兄)ちゃんだから。

ジャイ子の本名は何ですか? 剛田…ないんですね。いじめられて育った藤本少年は、もしジャイ子の名前が「まゆちゃん」だと、全国の「まゆ」という名前の女の子が「おまえ、ジャイ子と同じ名前や!」といじめられるかもしれない。だからジャイ子は本名を隠しているんです。ドラえもんって計算され尽くしている物語。

藤本少年には得意な事がありました。それは絵を描く事。ある時、ジャイアンのモデルのいじめっ子が、「おい、藤本! 俺の似顔絵 描いてみる!」めちゃくちゃイケメンに描くんです。それを見た時「お前の目には俺、こんな風に映ってんの?!」と感激して、そこで言った言葉が「心の友よ。」そう来たかと。

「自分の得意な事を伸ばして苦手な人と友達になれるって、ステキな事だと思いませんか?」子供たちは「うん、うん、うん!」大うなづき。キンコンカン鳴ってるけど授業終わらへん。

帰ろうと思ったら子供たちがワッと来て「質問があります!」「質問があります!」1年生の女の子が「わたし、どうしても言いたい事があるんです。」「どうぞ!」「わたしのおじいちゃん、ヒロシって言うんです!」「すげえ! 藤本弘とおんなじ名前!」

チャイムが鳴って、次の授業が始まるのに、子供たちが去らない。「次の時間が始まるよ」と先生たちが連れて行ったけど、3年生の男の子が「どうしても一言、言いたい事がある!」校門出かかっている私を追いかけて来て、担任の先生が後ろから走って来る。「どうしたの。どうしたん?」ハーハー言いながら「ボクのおじいちゃんの名前もヒロシです。」「それを言うために来たん?! ありがとー!」

この瞬間、コミュニケーションが成立してるんですね。

今日のテーマは「**家族の良いコミュニケーションの取り方**」。コミュニケーションは、ギリシャ語ではコイノーニア。コイノーニアにはコミュニケーションの意味もあるけど、共有とか共通の意味もあります。つまり、共有するもの・共通しているものを分かち合う事がコミュニケーション。共有するものが何もない時、コミュニケーションは成立しないんです。

家族というのは、共有するものがたくさんあるんじゃないですか? 同じ家に住んで、同じ御飯とおかず食べて。うちでは、カレーは私のために特別に作られてますけど。私は超激辛派。「甘いカレーはカレーじゃねえ!」みたいな。王子様のカレーとか、はらわた煮えくり返る感じ。それだけは別メニューですが、基本的には同じものを食べますよね。基本的には、子供たちは同じ両親を共有し合っている。

コミュニケーションが良い形で成り立っていくために、私は2つのものが必要だと思っています。

1. 共有する時間; 共有する時間がたっぷりないと、人は親しくなりません。今日初めてお目にかかる方もおられるのですが、私の事、警戒しません? 「あの人、嘸家みたいやし、実は嘸家みたいや」みたいな。「落語家ちゃうか?」一時期、志してましたけど。〇〇さんは毎年、ご夫婦で来て下さっている。3回目か4回目。七夕みtainな感じですよ。年に1回お会いするという。△△さんも3・4回。初対面の人って皆さんもそうでしょうけど、こっちも緊張する。大丈夫かなと。なんか、噛みつきへんかな…心配になる。時間の共有はすごく大切なんです。

今日、何冊かの本を紹介したいと思います。

アメリカにドブソン博士というクリスチャンのドクターがいます。私もコロラドのスプリングスにある「ドブソン家庭教育研究所」に行ってきました。すごい施設。色んな問題を抱えている親を担当している世界中のプロフェッショナルの教育者たちが、彼の所に行って相談しています。彼は心理学者・小児科医・精神科医。何よりも教育講演家。色んな活動で、多くのDVDやCDや本を出しています。

代表的な本の1つが『**男の子の育て方**』。男の子を育てるというのは、実は難しい。それは、刑務所に入っている人の男女比が、圧倒的に男性が多い事も分かります。問題行動を起こすのは、圧倒的にやんちゃな男の人が多。アメリカは特にマッチョな文化なので、乗り遅れていった時に大変なんです。みんなが強いからって、本当はそうじゃない自分を演じていたりする。

『**男の子の育て方**』の中で「4つの時間帯に両親か、お父さんかお母さんのどちらか1人が一緒にいる家庭環境の場合、思春期に入った時に問題行動を起こす確率が非常に低い」と言うのです。しかし、この4つの時間帯のどれにも親がいない/お父さんかお母さんがいない場合、思春期に問題行動を起こす確率が非常に高いという事が分かった。11,000軒の家庭にアンケート調査したんです。今日、これ終わったらアンケート配りますが、そういう事聞きませんので安心して下さいね。

4つの時間帯とは①**朝、目を覚ます時間**；起きた時、みそ汁やトーストの香りがしたり、お母さんが食事の準備をしている音がするか。それとも、起きた時シーン。家の中に自分以外、誰もいませんというのか。

②**登校する時間**；「行ってらっしゃい」と送ってくれるお父さんかお母さんがいるか。それとも、1人で身支度して、1人で段取りして、1人で出かけて行くのか。見送ってくれる・励ましてくれる親が誰もいないのは、子供にとって大きなストレスで、行かなくなる確率が高くなります。

私の3人の子供を振り返ると、それぞれ学校で人気者でしたが、学校行く時嫌がったなあ。スロースターターというか、特に長男は（今日いてへんから）泣いて、私を拝み倒すように「もう、勘弁して下さい」とか言うてね。「幼稚園、行きたくない！行きたくない！行きたくない!!」行って、帰って来る時は「良かった!」でも行く前は、エンジンかかるのにとっても時間かかる。行きたくない。なんで？家が居心地いいから。

この間、ある詩を読んで感心しました。小学校1年生の男の子の詩。「学校に行く時、お母さんに言った。『行ってきまーす。』するとお母さんが言った。『氣いつけて行って来いやー。』母さんの声は、ぼくの背中を押しました。校門の前まで押してくれました。」

後押ししてくれるというか、うちの場合クリスチャンホームですから、家内が嫌がる子供・ぐずる子供を3人揃って祈るんじゃなく、一人ひとりをグッとハグしながら「神さまと一緒にいるからね。」「今日、神さまが祝福を与えて下さるから。」そして、「行ってらっしゃい」の時は「イエス・キリストと一緒に行ってらっしゃーい」でしたね。イエスさまと一緒に行く。これは、クリスチャンホームで育った子には大きな勇気だったと思います。

だけど、朝起きた時に誰もいない。登校する時に、新しい人間関係の中に飛び込んで行こうとする時に、応援団が誰も付いていない。「もう、今日、やめとこかな…」と思いますよね。皆さんだって、会社に行きたくない時、ありません？ だけど、コレ（お金）がかかっているから行かざるを得ない。学校は行かなくても別に関係ない。休みます。

③学校から帰って来た時；「ただいま」と言った時「おかえり。今日、どうやった？」と迎えてくれるお父さんかお母さんがいるか。それとも自分で鍵開けて、シーンと静まり返った真っ暗な家の中へ1人入って行って、誰も話し相手がいないか。「ただいま」の時、笑顔で迎えてくれる父さんか母さんがいる環境で育ったのか、誰も迎えてくれる人がいないという少年時代だったのかで違いますよ、という事です。

④寝る時；「おやすみなさい」と言った時、お布団掛けてくれる人がいるかどうか。寝る時、お父さんかお母さんが添い寝してくれたり、絵本を読んでくれたり。「今日1日、ようやったね。疲れてるからもう寝なさいよ」と寝かしつけてくれる人がいるか。それとも、眠る時にも誰もいないのか。皆さんは自分の少年少女時代を振り返った時、いかがですか？

4つの時間帯に両親が揃っていたら1番いいでしょう。だけど、日本の社会で、お父さんがそんな事をしていたら…。主婦業をしているお父さん、それは無理や。お母さんはどうでしょう？ 共稼ぎ…。ベストなのは4つの時間帯のどれかに、どちらか1人の親がいるという事です。全部でなくても、どれかにいるという事ですよね。1番きついのは、4つの時間帯のどれにも、父さんも母さんもいない。これはキツイ。

家はハッキリ言って箱。家で育つ・家庭で育つと言うけど家は建物。もちろん、雨露・夜風を凌ぐために建物の家も必要です。だけど、子供は家だけで育つのではなく、「見守られている感」がとても大事なのです。安定して、「私は世の中に出て行っても大丈夫なのだ」という安心感を持つためには、幼い時に「私は見守られている」「私の手に負えない問題を解決してくれる親に見守られている」「私には信頼できる人がいる」という環境の中で育つ事。そのようにするためには「見守ってるよ」「何かあったら駆けつけるよ」という言葉だけではダメ。一緒にいる事が必要なのです。

良いコミュニケーションのために必要な事は、同じ時間をたっぷり共有する事。用事がある時だけ近づいてくる人と親しい関係を結べますか？ 借金頼む時だけやって来る人って嫌でしょう。「用事はないんだけど、美味しいパンを買ってきたから食べる？」「この間見た映画すごく良くて。タダ券持ってるからどうぞ。」「用事はないんだけど、声が聞きたくて」と連絡くれたら嬉しいですね。

愛を伝えるのに1番いい方法は、一緒に時間を過ごす事です。時間はお金に換える事はできません。お金は使ってもまた稼いで取り戻す事ができる。でも、過ぎ去ってしまった時間は、二度と取り戻す事はできません。一緒に時間が長いならいい。

時々「量より質!」「ダラダラ時間過ごすより、やっぱり質が大事!」って言う人がいる。質は大事ですが、超高級和牛ヒレステーキでも、0.1グラムやったらあかんのちゃう？ 一口もない。あれ?って感じ。ある程度の量がないと質は質にならない。「やあ!」で終わっていたらダメなんです。

昨日午前中、女性限定の聖書入門講座がありました。ここの集会のあるクリスチャンが「ご家庭で夫婦の会話が1時間以上ある人、手を上げて下さい。」すると1人だけ。家内。そしたらその人が「あんととこ、よう喋るのが2人揃てるから。」「ほっといてくれ!」みたいな。だけど、それ、やばいんちゃう？ 聖書によると、親子関係よりもっと大事なものは夫婦関係です。今日はそこまでいきません。とにかく時間。一緒に時間を過ごす事が大切。

2. 共通の物語を持つこと；私は木曜日にある本を脱稿しました。5月末に発売になる予定でございますので、読みたいなという方はここに電話して下さい（フリ）。私が原稿を書くのはスタバです。電源コードが付いているテーブル席。スタバの木の椅子はお尻が痛い。お尻の筋肉がなくなってきたから。

そこで長時間書きます。パソコンの電源コード取れるし、100円出せば2杯目飲める。どうでもいい話

時々、恋人同士なのかカップルが来て、お互いそれぞれスマホいじって、ラインしているのが多い。これって、時間共有になってんのかな？ 今目の前にいる人と話さないで、目の前に人はいるけど、それぞれラインで目の前にいない人と交信している。この場合、同じ空間・同じ時間を共有しているけど、コミュニケーションを共有した事にはならないと思います。一緒にいるだけでは、良いコミュニケーションを取った事にはなりません。

それと同じように、家庭でも同じ空間の中に住んでいるというだけで、コミュニケーションの成立ができていない事もあり得ます。特に思春期以降、親子の共通の会話・共通の話題・関心事項がすれ違って行く事が多いと思います。幼児の時はいいですよ。小学校時代までは。だけど中学校・ローティーン・ハイティーンになっていったら、段々親の言う事聞かなくなる。

子供も小さい時には、「父親のいう事は絶対間違いない」と思っていたけど、成長していったら「ウチって大分特殊だ」という事が見えてくる。「ウチで学んでいる事や教えられている事は、世の中で言っている事と全然ちゃうやん！」批判力も付いてきて、すれ違ったり、会話が成立しなかったり。

良いコミュニケーションのために良い物語を共有する。幼稚園や学校であった事・昔話。色んな事があるでしょう。私は、「幼い時から優れた絵本の読み聞かせをする」事を強くお勧めしたいです。

私は10年間商社に勤めてました。営業マン。もう忙しかった！特に、ラスト2年は九州の営業を1人で担当。月に1回出張。車でフェリーに乗って、また帰って、それ以外に西日本の主要支店を全部回って。忙しいのに引き受けてしまう。私の欠点ですが、成果を見せる事で、自分の価値を認めてもらおうとする傾向が強いと思います。男にはそういう弱点がある。「おまえ、すごいな」と言われる事で何か安心するような。だから、ちょっとハードル高いの、断ったらいいのに「はい。やりますよ。」言った後で「あっ！」それで、後で首締まって来るんですよ。「忙しい！」

その忙しい私が、子供たちと時間を共有する唯一の可能性は金曜日。それで金曜日の夜、家族の時間を強制的に取るようにしました。長男が4歳の時から始めて、20歳まで続いたんです。毎週金曜日、何があってもこの時間を死守。どのように死守したかという電話線を抜く。だから、この時間帯は一切連絡が入らない。まだスマホや携帯電話がなかった時代ですから、そういう事ができたんですね。

子供たちにも特別な時間になるように、金曜日の夜はシャバット（安息日）というのですが、一帳羅（いっちょうら）というか、いい服を着せました。お出掛けする訳じゃないけど「今日は金曜日だから。」子供って、非日常が好きなんです。だから、いつもの食卓ではなく、ある時は玄関で食べる。「お父さん、なんで玄関で食べるん？ここ、下駄箱やで。」「たまにはいいじゃない。」「うん！」子供は非日常が好き。落雷か何かでJRが止った時、サラリーマンはキーツ！ってなってるやん。小学生、見てみ。「イエィ！○＃＆△～！」若いというのは非日常や変化を楽しむ。歳を取るに従って保守的になる。変化が余り好きじゃない。というか、変化に付いていけない。精神も筋肉と一緒に、硬直化するんですよ。

という事で、読み聞かせをする。まず、なぜ読み聞かせがいいと分かったかという、こういう集会在群馬県にもあって、そこに読み聞かせのコーナーというのがあるんです。

教会でやっている親子遊びの会。そこに、プロフェッショナルの読み聞かせの達人がいますねん。メチャ上手い。朗読は一つの芸術ですよ。なのに「高原さん、やって下さい。」「俺が？ 上手い人の前で？」英語できる人の前で通訳するようなものです。ものすごい苦手意識。

で、渡された本が、今でも忘れられないのですが『**いないいないばあ**』。これ、私にとって、ものすごい発見。ある事を教えられました。「いないいなーい」で本で顔を隠して、「ばあ」で顔を出す。

「いないいなーい」の時、赤ちゃんがジーッとこちらを見てるんです。そして「ばあ」で、この顔出て来るやん。「わあ」って寄って来んねん。その時、寄って来る前に必ずする事は、お母さんの顔色見る。お母さんの「この人、噛まないよ。大丈夫よ」という顔色見てから、私の所に寄って来る。教えられたね、これ。赤ちゃんて、あんな小さいのに顔色読むんですよ。赤ちゃんは顔を見てます。すごいなあ。

もう1つビックリした事で、「これはコミュニケーションのツールになる」と思ったのは『**くだもの**』という絵本。これも衝撃！これは薄っぺらな絵本で、色んな果物を切り身にして、フォークに刺して差し出している。これが、全ページ一緒のセリフ。「あーん」こんだけ。全ページ、フォークに刺したのを「あーん」で「描いてある果物を召し上がれ」という本。

オチがないねん。僕、大阪人やん。大阪人はね、オチがない話は許せないわけですよ。最後まで「あーん」で終わんねんけど、これ読み聞かせした時、赤ちゃんみんな「あーん」って大きな口開けて。出て来ないんですよ、この果物。そやけど、みんな口開けて「あーん」て。その時、初対面の赤ちゃんと私の間にコミュニケーションが成立してるんです。絵本で、すごい威力。

関西のある私立大学の教授から言われて、コミュニケーションの事で1コマ話しました。アメリカンフットボールの強い大学。この間、なんとかタックルで事件になった大学。匿名になってないけど。50人くらいで8割くらいが女子。2割が男子。絵本の話をして、「『**あらしのよるに**』という絵本、読んだ事ありますか？」と聞いたら何と9割。男、全員手を上げています。そして、ストーリーをほぼ全部覚えているんです。幼稚園の読み聞かせの時間とか、小さい時お母さんが読み聞かせてくれたとか。つまり、幼い柔らかい心の時に聞いた話を大人・20歳になっても鮮明に覚えている。絵本というか、幼い時に良い物語を伝えるという事は、非常に有効な手立てであると思いました。

思いやりのある子供に育てようと思ったら、どうしたらいいですかね？ 思いやりは放っていても生まれません。たとえば、お寿司やケーキを等分にした時、子供たちはどうしますか？ 「ボク、イチゴが載ってない、1番ぐちゃぐちゃになってるのでいいよ」と言う子供、います？ もしいたら、相当訓練されて、何か良いものを親からいっぱいもらってる。普通は「こっち。いや、こっち。いや、やっぱりこっち。でも、こっち。」「はよ、決め！」1ミリでも多いやつにするんちゃう？ 「いや、そうではありませんでした」と言う人、自分を偽るのはやめて下さい。基本的に、子供は自己中心ですよ。

うちにもあったので今日持って来ました。『**あらしのよるに**』。シリーズで全部で6冊。2冊目・3冊目・4冊目に行くほど感動します。これ、おすすめ。「ガブ」というオオカミと「メイ」というヤギの物語。

大嵐で真っ暗な中、ずぶ濡れのメイというヤギが山小屋に避難します。ガブというオオカミも同じ山小屋に来ました。コツ、コツ、コツと足音がするので、メイは「これ、蹄や。獰猛なオオカミとかじゃなくて、仲間の草食動物の蹄や。安心」と思った。真っ暗だから、相手の姿は見えないんです。

そして相手が入って来て「足くじいたから杖ついてたけど、もうここで寝転ぶか」と杖を放り投げた。

オオカミですよ。オオカミとヤギが1軒の山小屋で一晩過ごすのですが、真っ暗なのでお互いが分からへん。でも、話している内にめっちゃくちゃ意気投合。「今まで付き合ってきた友達の中で、こんなに細かい部分まで互いに分かり合える人いなかった。」両方とも初対面ですが、「すごい親友になれそう! ずっと君と話していたいよ!」真っ暗だから相手が分からない。その時ピカッと雷が光って、お互いの姿が見えるのですが、2人共うつむいていた。って、じらしますねん、これが。

ようやく嵐が去りました。「ここでお別れって、余りにも残念。君とだったら、もっと話の続きをしたいなあ。明日、この場所で、お互いの姿が分かるお屋間にまた会おうよ。その時、人違いというか、動物違いにならないために合言葉を決めておこう。『あらしのよるに』」。ここで終わるんですよ。じらすでしょ? 次、どうなんねん?!

次の話が、まあこれが感動! 全部言ったらネタバレになるから言いません。要するに、相手がヤギだと知って、そのヤギの人格というか、本当の友達になれる人だという事が分かり、空腹でたまらないオオカミは、自分の本能を押さえて色んな犠牲を払っていくんです。

これを読んだ後、子供たちに「友達って何だと思う?」と聞いてみて下さい。いっぱい出て来ますよ。「こんな事してもらった事ある?」「ない。」「じゃあ、自分はした事ある?」「ない。」「それ、どう思う?」「自分がした事ないから、してくれないと思う」とかね。深い答えが、4歳児や5歳児から出て来ます。私はその時の話、子供たちの言葉、全部日記に書いています。

「思いやりのある人になりなさい」と言っても、思いやりが何か分からへん。子供は重量の重い槍の事を考えているかも分からへん。重い槍。そもそも、思いやりのある人になりたいと思わないんじゃない? 深い・良い価値観というのは、物語られる事によって初めて届くんです。子供が幼い時に良い物語を伝えるという事・良い物語を通して親が信じている最高の価値観を伝えていく事はとても大事です。

私は子供たちが幼かった時、金曜日に『**こどもバイブル**』を使いました。発行は27年前。聖書の最初は**創世記**、最後は新約聖書の**黙示録**ですが、創世記から黙示録までを1冊にまとめた子供向けのバイブルです。この本のいいところは、絵が付いているのですが全ページ4行で終わってる。

イエス・キリストの有名な山上の垂訓。『山の上で』。ちょっと読んでみましょうか。「おじいさんもイエスに会いに出かけました。子供たちもイエスに会いに出かけました。お兄さんやお姉さん、お父さんやお母さんも、イエスに会いに出かけました。」おしまい。だから、自分で盛れる。ここに書いてある事以外を話せばいいのです。

次のページ見てみましょう。「嬉しい人は会いに来ました。悲しい人も会いに来ました。元気な人は会いに来ました。病気の人でもイエスに会いに行ったのです。みんな、イエスの話を聞いたかったのです。なぜでしょう。」終わり。なに?これ。ここから盛るんです。

次の話。「イエスは、みんながやって来るのを見て山に登りました。イエスは座るとこう言いました。『この鳥を見なさい。この鳥は、エサを蓄えておく納屋を持っているのでしょうか。違います。神さまが養っているんです。』」おしまい。「へえ、そうか。鳥って働いてないのに、神さまが養ってくれてるんや。僕らは鳥よりもいいものとして造られているから、神さまは僕らの事、絶対忘れへんわ」と言える。

ところが、毎週金曜日にこれを使っていたら、あっという間に終わってしまった。それで私の場合、聖

書というネタがあるので、聖書の物語を紙芝居にしていたのですが、そのきっかけはこうでした。裏が白いチラシに、漫画で一筆書きみたいに、大きな魚に呑み込まれたヨナの話をやチャチャと2秒くらいで描いて説明しました。それが終わった後で何が起こったか？3人の子たちが、父親が描いたこの絵を取り合い。争奪戦。屑箱に捨てようと思っていたのに。

「幼い子供にとって、親が自分のために作ってくれた物は、そんなにも思い出深い物になるのだ」と分かった時、わが子のために時間と労力を惜しまずにハンドメイドで作ってみようと、100均ショップの1冊100円のスケッチブックで紙芝居を描きました。150作あって、全部オリジナル。3人の子供たちだけのための紙芝居。週に1回しか彼らと会う事ができなかったのも、それが私にできるベストだったのです。途中から苦痛になって来たけど、子供たちの反応を見ると「やって良かったなあ」という気持ちがすごく強い。

「たとえお父さん/お母さんがいなくても、神さまは君たちの事を守っている。お父さん/お母さんはいつか死んで、君たちと別れなければならぬけれど、神さまの君たちへの愛は変わらないから大丈夫なんだよ」という事を話していました。

実は1番下の子が15歳の時に妻が癌で亡くなったんです。真ん中の子供が「昔、紙芝居で言ってくれたよね。お父さん/お母さんは地上の親だけど、いなくなった後も、イエス様は僕たちを見守って下さってる。今、僕は気持ちがつかない部分があるけど、あの時の事、思い出すよ」と言いました。話した私自身が忘れていた事を克明に覚えて、子供の時に植え付けられた良い物語が、一つ乗り越えていくための、生きていくための勇気になっている。それが分かった。

絵を描いたり、物語を作ったりは、余り得意じゃないという人もいるでしょう。だから同じ事しないでいいんです。自分が1番できる事、ありますよね。

既に売っている本の中で、いい絵本はいくらでもあります。それを読み聞かせて、「この世界をお造りになった神さまが、君たちをいつも見守って愛している。君たちを愛するための道具としてお父さん/お母さんがいるんだよ」と教えてあげたら二重の守り。素晴らしいんじゃないかなと思います。

「良い物語を共有する」という事を、1度やってみてはいかがでしょうか。

一つ、ご提案があります。子供にどんな話をしていいかわからないという方に、この集会では子供たちのための特別なプログラムがあるんです。ジョイ・キッズ。毎週日曜日の午後3時半から、この集会所の1階でやってます。私の100倍くらい上手に・面白く・楽しく子供向けの話をしてくれて、とても好評で、遠路はるばる色々な方が来て下さっています。

その時間、上の階では、大人向けの聖書の話もあるのですが、そっちに来ないで、子供向けの方に行っているご両親もおられるんですね。どちらでもいいです。是非1度参加して「こんな風にするのか。」

「聖書の物語って、こんなに素晴らしいんだな」と経験して頂いたらいいんじゃないかと思います。

また来年、皆さんと良い時間を過ごす事ができたらなと思ってます。ここで一旦おしまいになりますね。最後まで、ご清聴ありがとうございました。(この後、Q&A)

どうぞ、イエス様を信じて下さい。心からお勧めします。

* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」検索。ぜひ見て下さい。

* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(15分)も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。

動画筆記 : Rumi

